

マレーシアは積極的な非同盟を堅持する

ダト・セリ・アンワル・イブラヒム（マレーシア首相）

2025 年 5 月 31 日

シンガポールでの第 22 回シャングリラ対話での特別演説

<https://www.iiss.org/ja-JP/events/shangri-la-dialogue/shangri-la-dialogue-2025/plenary-sessions/special-address/>

議長様、この貴重な機会と栄誉を賜り、誠にありがとうございます。シンガポールのローレンス・ウォン首相が私を執拗に誘い、マレーシアにとってシンガポールが、どれほど影響力があるかを目の当たりにするよう強要しました。当初は、問題に対応する専門知識がないため断るつもりでしたが、私の良い隣人であり友人である彼が強く勧めたため、断るわけにはいきませんでした。

とにかく、ローレンス・ウォン、本当にありがとう。そして、ラモス・ホルタもここにいますね。私たちを見守っているのですか？改めて、ありがとうございます。

さて、この会合は、私にとって、もちろん、アイデアを試し、仮定に挑み、静かに共通基盤を築く、非常に重要なフォーラムです。ここでは、**東南アジアが、協力和集団的回復力、そして自らの主体性を着実に発揮すること**で、どのように自分の立場を維持しているかを述べたいと思います。ローレンス首相、マレーシアとシンガポールは、あらゆる分野で協力関係をさらに深めています。これは、あなたが参加されることを知る前に準備したものですので、私の心からの感想です。

その一例が、シンガポールとマレーシア南部の投資、イノベーション、接続性を強化するために設立された経済連携協定です、ジョホール・シンガポール特別経済区です。世界がますます分裂と断層を深めるなかで、私たちは、分裂ではなく

共通の目標によって定義される、別の種類の国境を提供することを目指しています。このジョホール・シンガポール特別経済圏が、二国間レベルでの協力によって達成できることを示す一例であるならば、東南アジア諸国連合（ASEAN）は、より大きなキャンバスになると言えます。

先週クアラルンプールで開催された第 46 回 ASEAN 首脳会議は、実質的で生産的なものとなりました。私たちは、雇用、接続性、持続可能性を中核として、この地域をより緊密に結びつける 20 年間のロードマップである「ASEAN 2045 に関するクアラルンプール宣言」を採択しました。これは、持続的な安全保障を構築するための基礎となるものです。私たちは、東ティモールを ASEAN の 11 番目の加盟国として承認するという歴史的な決定を下し、10 月の首脳会議で正式加盟が見込まれています。

現在、ミャンマーの状況は依然として深刻ですが、私たちは立ち止まってはいません。ASEAN は結果を操作しようとはしていませんが、5 項目からなる合意では、この危機によって最も影響を受けている人々を排除した解決は長続きしないことは明らかなです。ミャンマーの国家は、排除ではなく、包摂によって築き上げられなければなりません。

国境を越えて、ASEAN は戦略的視野を広げています。ASEAN-GCC（湾岸協力会議）首脳会議は、湾岸諸国との関係を深めました。今週、前例のない、画期的な ASEAN-GCC-中国 3 カ国によるイニシアチブが発足しました。これは、ASEAN のエネルギーと人材を、湾岸諸国の資本と中国の規模と結びつけるという、私たちの意図を反映したものです。ASEAN 地理経済タスクフォースなどの新しいツールは、より鋭敏な連携と先見性をもって、外部からの衝撃に対処するのに役立っています。

こうした見出しは重要ですが、真の強さはその背後にあるもの、すなわち、トクヴィルが「心の習慣」と表現したもの、つまり、一貫した道徳観に基づく民主的機関を確立し、維持するのに役立つ作法にあるのです。そして、それは私たちに協力、貿易円滑化、サイバーセキュリティの枠組み、国境を越えたデータ規則、文化協力などの習慣をもたらしています。これらはそれほど劇的なものではな

いかかもしれませんが、東南アジアが協力する大きな原動力となっているため、その重要性は決して劣るものではありません。そして、私たちが協力し合うほど、外部の重力によって引き離されることは難しくなります。

私たちの自主性を維持することは、他者に抵抗することではありません。それは、私たち自身を強化することなのです。つまり、これがまさに ASEAN の中心性です。同じ精神が、世界経済および貿易の不確実性に関する ASEAN 首脳声明にも反映されています。私たちは、一方的な行動、報復的関税、そして世界的な分断のリスクの高まりについて注意を喚起したいと思います。

私たちは、ASEAN が開かれた、予測可能で、ルールに基づく貿易体制をしっかりと守っていく決意を再確認にします。それが便利だからではなく、不可欠であるからです。東南アジアにとっては、グローバル化は新しいものではありません。私たちは、グローバル化の原点である交差点のひとつです。マラッカ・スルタン朝、マジャパヒト帝国、東南アジアの諸王国から、現在のデータセンターに至るまで、私たちの地域は、商品、資本、アイデア、人々の流動性に依存してきました。この開放性は、私たちの繁栄を支え、政治を確立し、地域の一体性を強化してきました。私たちに当てはまることは、他地域にも当てはまります。貿易が繁栄すれば、安定が続きます。それが衰えれば、その影響は一つの地域を超えて広範に及ぶでしょう。

経済の開放性は、単に繁栄と成長を生み出すだけではありません。それは、貧困、社会的格差、デジタル格差など、人々を直撃する課題に対処するための均衡の源です。開放的な市場は、国家間が相互に露出されることによって対立ではなく慎重さを生み出します。このシステムが混乱すると、市場は方向を見失います。投資家の信頼が揺らぎ、資金の流れが停滞します。商業の断絶は、システム的なショックへと発展します。歴史は、これらの変化がほとんどの場合、緩やかなものでないことを教えています。

このコミットメントは、グローバル市場と深く結びついた開放的で輸出依存型の経済として、私たちが直面する現実を反映しています。私たちのような国にとって、貿易の分断はコスト上昇、回復力の低下、投資の抑制をもたらします。通

貨の変動や投資家の逃避は国境を越えて広がります。エネルギー、食料、重要鉱物の供給網の混乱は、社会全体に急速に波及します。

ですから私たちは、先にある安全保障上の課題について幻想を抱いていません。しかし、東南アジアでは、持続可能な安定は、堅固な基盤、明確な政策、長期的な視野から始まることを学んできました。貿易はソフトパワーの贅沢品ではありません。それは私たちの戦略的構造の一部です。それは、あらゆる重要なシステムと同様、競争ではなく、恣意的な貿易制限の押し付けから保護されなければなりません。

貿易に関するこれらの議論は、私たちの地域が直面する厳しい安全保障課題に無関心であることを意味するものではありません。よく知られているようにヴォルテールは、悲惨な状況下で全てが順調だと主張する楽観主義は狂気だと喝破しました。いまは歴史上、疑いようのない厳しい局面です。

武装衝突の数は、第二次世界大戦終了以来最高水準に達しています。ウクライナでの戦争、ガザでのジェノサイド、ミャンマー、スーダン、サヘル地域での内戦などです。えり好みした怒りや計算された疲れで、道徳的明確さを鈍らせてはなりません。実際、ガザでのジェノサイドで、私たちの集団的良心が試されています。破壊の規模、人道規範のあからさまな無視、それを守るべき機関の麻痺は、同情を超える行動をもとめています。必要なのは言行一致と行動です。

新しい正統性は、外交の見方だけでなく、安全保障の構造にも影響を及ぼしています。説得を弱さとして一蹴すれば、排他性が戦略となります。私たちは、志を同じくするパートナーたちが話し合うことに反対するわけではありませんが、橋を架ける代わりに壁を築き、軍拡競争を煽り、多国間主義の正当性を損なうような連合には、立ち止まって考え直すべきです。安定した地域とは、紛争に備えた地域ではなく、開放性、透明性、そして習慣的な協力関係に基づく地域です。

私たちは、各国が自国の防衛産業や重要インフラをある程度管理する必要があることを理解しています。また、一定の抑止力がすべての当事者の信頼を保つのに役立つことも認識しています。マレーシアは、こうした現実主義を踏まえよう

えで、積極的な非同盟という立場を採用し、自国の条件に基づいて行動する能力を維持しています。これは、外を向いてつながりを保ちながら戦略的空間を制御し続けるため熟慮して作り出された方法です。一方の側に完全に同調しないのは、もう一方の側への屈服だなどという主張は、まったく成り立ちません。このことは、紛争が極めて複雑な南シナ海に関する現在の議論に最もよく表れています。

私たちの目標は、緊張のエスカレーションを通じて達成されるものでも、他者を過剰な反応に駆り立てることでもありません。それは、必要に応じて静かに、しかし常に堅固な原則に基づく外交を通じて追求されるべきものです。

マレーシアは、南シナ海で主権を主張する諸国間の緊張のエスカレーションの可能性について、深刻な懸念を抱き続けています。私たちは、緊張が対立へとエスカレートするのを望んでいません。特に、私たちの安全保障と繁栄に不可欠な海域において、そのような事態はなんとしても避けなければなりません。そのため、私たちはすべての当事者と冷静に、直接的に、一貫して関与し続けるでしょう。自制を促し、対話を奨励し、この地域が依存する安定を維持するための努力を続けます。何よりも、私たちは、すべての当事者が国連海洋法条約を遵守するという原則的な立場を堅持します。

首相、皆様、

マレーシアは勢力圏を認めません。歴史は、大国が世界を排他的支配圏に分割しようとする際、小国が声を失うことを示しています。安定は地図を切り分けることではなく、すべてが意味ある形で秩序の形成に参加する空間を創造することから生まれます。

私たちのアプローチは、積極的な非同盟です。私たちは、大国の間でも、中堅国でも、協力する意思のあるすべての国々と連携し、国々を対立させるのではなく、自国の戦略的空間を最大限に拡大していきます。実際、私たちは、平和の促進のためにこの地域における米国の強力かつ永続的な存在を歓迎する一方で、中国との活気に満ちた強固な関係、そしてアジア、ヨーロッパ、そしてグローバル・

サウス全域における強固なパートナーシップも重視しています。

東南アジアに必要なのは、強制のない協力と、ブロック政治のない均衡を可能にするダイナミックな均衡です。マレーシアにとって、これは、開かれた地域を維持し、主権を主張し、自らの選択を行うための、慎重かつ戦略的な姿勢です。

Terima kasih。ありがとうございました。

【翻訳チェック 田中靖宏】